

HLA-DNAタイピング（遺伝子型判定）

DNAタイピングによるHLA遺伝子型解析法を現行のSSP法からSBT法（Sequencing Based Typing）に変更いたします。SBT法はPCR法によりDNAを増幅し、増幅産物の塩基配列を既存アレルの塩基配列情報と照合して精密にHLA遺伝子型を判定する方法で、高精度な4桁レベルの判定、さらに6桁レベルでの判定も可能です。また、新規アレルにも対応可能となっています。

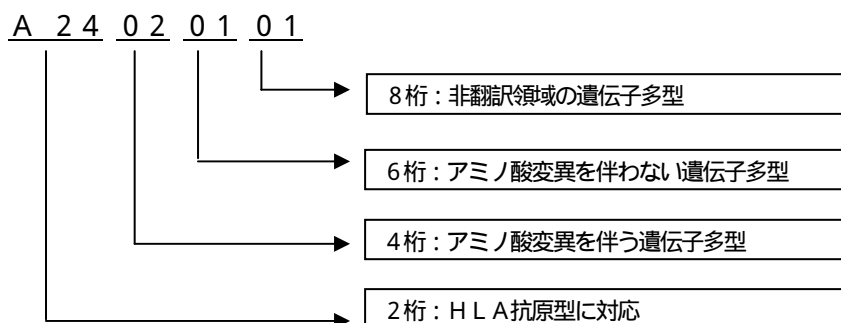
骨髄移植におけるHLAタイピングは、4桁レベルの完全適合が移植の成功率を上げ、重度のGVHD頻度を低下させると言われますが、このHLAタイピングの最も信頼性の高い測定法がSBT法です。

なお、SBT法において区別ができない2種類以上のアレルが存在する場合は、PCR-SSP法にて確認を行います。

【HLA-DNAタイピング（遺伝子型判定）：二法の比較】

| | 測定原理 | 判定レベル |
|------|---|-------|
| SBT法 | HLA遺伝子領域のPCR産物から直接塩基配列を決定し、既存アレルの塩基配列と照合して型を判定する方法。 | 最大6桁 |
| SSP法 | HLAアレルに特異的な多種のプライマーでPCR後、電気泳動を行い、陽性バンドを確認し判定する方法。 | 4桁 |

【HLA-DNAタイピング（遺伝子型判定）の解釈】（HLAアレル表記法の定義）



新検査方法参考文献 猪子英俊，他（監修）：移植・輸血検査学，講談社、東京、2004。